



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	A Study on the Tenants' Usage and the Design Guidelines for Public Housing in China [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	李, 翥彬
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(工学)
Dissertation Number	甲第11458号
Issue Date	2014-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/55581
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Li_Zhubin_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士 (工学) 氏名 李 翥彬

審査担当者 主 査 教 授 瀬戸口 剛
 副 査 教 授 岡田 成幸
 副 査 教 授 森 傑
 副 査 教 授 越澤 明

学位論文題名

A Study on the Tenants' Usage and the Design Guidelines for Public Housing in China

(中国における公営住宅の住まい方とデザインガイドラインに関する研究)

中国では、1998 年に実施された住宅改革の後、公営住宅の供給システムが再編され、低所得者に対して「経済適用房」と「廉租房」の、2 種類の公営住宅が供給されているが、公営住宅の供給不足と計画手法が問題になっている。現在では、「公共租賃房」が加わりの 3 種類が供給されている。

中国での公営住宅に関する研究は緒に就いたばかりで、その多くは住宅政策に関するもので、居住空間としての公営住宅デザインに言及する研究は少なく、居住環境のニーズを把握し、それらを空間計画に反映させている研究はわずかである。そこで本研究では、中国の公営住宅における居住者のニーズと住まい方に着目し、現状の公営住宅の住環境を明らかにするとともに、今後の中国における公営住宅のデザインガイドラインを開発することを目的としている。本研究で使うデータは、瀋陽の公営住宅 6 団地を対象として、有効サンプル数 400 戸の戸別訪問調査により得ている。

本論は 7 章から構成され、各章の概要は以下の通りである。

第 1 章では、本研究の背景と目的を示した。事例および文献調査より、中国の公営住宅デザインに関しては、居住ニーズを把握した研究が十分に行われていないことを明らかにした。

第 2 章では、中国の住宅政策と 3 種類の公営住宅に関する課題を、日本の公営住宅の発展過程との比較において明らかにした。将来の中国でも、現在の日本と同様の課題に直面することが予想され、事前に課題を明らかにし、対応を検討することが重要である。

第 3 章では、対象地区において公営住宅に対する居住者の評価を、戸別訪問により調査し分析した。その結果、高齢者と身体障害者の満足度は、それ以外の居住者よりも低いことを明らかにした。さらに、住戸面積、居室構成、リビングルームの使いやすさの、3 要素については居住者の評価が低く、居住者の満足度と深く関係することも明らかにした。

第 4 章では、公営住宅における住まい方調査を行い、公営住宅デザインの課題を明らかにした。住戸の構成と満足度により住まい方を 5 つに分類し、「1 寝室十分」「1 寝室不十分」「2 寝室十分」「2 寝室不十分」「住戸改修」とし、それぞれの部屋の使い方と課題を示した。今後の中国の公営住宅デザインを、居住者の家族構成と多様なライフスタイルをもとに計画すべきことを明らかにした。

第 5 章では、リビングルームの使い方を中心に分析し、「LK」「L+K」「その他」を導き出した。多様な家族構成やライフスタイルに対応して計画するためには、リビングルームの使い方が柔軟であるべきことを明らかにした。

第 6 章では、中国における公営住宅のデザインガイドラインを、ユニバーサルデザインの視点を

取り入れて開発し、2通りの住戸モデルを導き出した。住戸モデルは3つのデザインガイドラインに基づいている。1つ目は、身体障害者の利便性向上のために、キッチンとバスルームの面積を拡大する。2つ目は、視線を確保するために、半開放的なキッチンとする。3つ目は、可動間仕切りを導入し、居住者のニーズに合わせて居室を改修できるようにする。

第7章では、各章の論考より、以下の結論と本研究の意義を整理した。

第1に、中国の公営住宅においては、住戸面積、居室構成、リビングルームに、居住者のニーズが高いことを明らかにした。中国の公営住宅における居住者の満足度を明らかにした研究例は少なく、得られた結論は、今後の中国における住宅政策と公営住宅デザインに、大きな影響を与える。

第2に、現在の公営住宅の構成を5つのグループに分類した。それぞれのグループにおける居住者の住まい方を調査し、居住者が求める室内空間と住環境のあり方を明らかにした。これは、新設する公営住宅だけでなく、既存の公営住宅の改修等に対しても大きな意義がある。

第3に、ユニバーサルデザインの考え方を導入し、本研究の成果に基づき、小規模面積で多様なライフスタイルが実現できる、公営住宅のデザインガイドラインを開発した。デザインガイドラインには、それぞれの室内空間の設計方法を詳細に示した。中国および地方政府が、公営住宅のデザインガイドラインを開発する場合に大きな影響を与える。

これを要するに、著者は、中国における公営住宅の居住実態や居住ニーズを明らかにするとともに、ユニバーサルデザインの計画手法を開発し、高密居住地区における都市居住の新たな居住環境の調査手法および計画手法を確立した。これは、都市計画学、都市デザイン学、住環境計画学に貢献するところ大なるものがある。よって著者は、北海道大学博士(工学)の学位を授与される資格があるものと認める。